令和４年度

函館白百合学園高等学校

一般入学試験問題

国　　語

全コース共通

令和４年２月15日(火)実施

注意事項

１．　試験時間は50分です。
２．　問題は一から四まであり，18ページまであります。
３．　答えはすべて別紙の解答用紙に記入し，解答用紙だけ提出しなさい。

一

次の問いに答えなさい。

問一　次の――線のカタカナを漢字に直しなさい。

① アセらず慎重に行きましょう。
② 利益だけをツイキュウするやり方。
③ 雨で遠足が明日にノびた。
④ 世界イサンに登録する。
⑤ ボランティア行為にカンシンする。
⑥ 提出された法案のゼヒを問う。
⑦ 運賃をカイテイする。
⑧ 彼女はホガらかな性格だ。

問二　次の――線の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

① 発言の根拠を探る。
② 犯罪の証拠を発見する。
③ 画一的な教育をあらためる。
④ ゴミの山を覆い隠す。

問三　次の□に共通して入る体の一部を表す漢字を入れて、慣用句を完成させなさい。

①　□が下がる　□を抱える

②　□が肥える　□を疑う

③　□が出る　□が棒になる

問四　次の□に後の漢字を入れて、四字熟語をそれぞれ完成させなさい。

①　□和雷□　　②　□我□中

同　夢　一　道　霧　不　付　無

問五　次の言葉の□に入る語として適当なものを、ア～オからそれぞれ選びなさい。

①　悪事□を走る〔意味…悪い行いは、たちまち世間に知れ渡る〕

②　□をたたいて渡る〔意味…用心深く物事を行うこと〕

ア　太鼓　　イ　光陰　　ウ　石橋　　エ　千里　　オ　大空

問六　次の行書で書いた漢字を楷書で書いた場合、総画数が同じになるものを、ア～エから一つ選びなさい。

ア　園　　イ　遊　　ウ　陰　　エ　終

二　次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

帝にお仕えしている御猫様は、五位をいただいていて、「命婦のおとど」といって、　たいそうかわいいので、帝は大切になさっていたが、　その猫が縁先に出て寝ていた時、　世話役の馬の命婦が「まあ、（　②　）ことだよ。お入りなさい」と呼んでも、　日が暖かくさしていて、　猫はすっかり眠っているのを、脅かそうとして「翁丸（犬の名）どこ？　命婦のおとどにかみつけ」と言うと、「（　③　）に？」と思って、この馬鹿者は走って猫に飛びかかったから、猫は驚きうろたえ、帝のいる部屋のすだれの中に入ってしまった。

上にさぶらふ御猫は、かうぶりにて、命婦のおとどとて、いみじう①をかしければ、かしづかせたまふが、端に出ててふしたるに、乳母の馬の命婦「あな、まさなや。入りたまへ」と呼ぶに、日のさし入りたるに、ねぶりてゐたるを、おどすとて、「翁丸、いづら。命婦のおとどへ」と言ふに、まことかとて、④しれ者は走りかかりたれば、おびえ惑ひて御簾のうちに入りぬ。

『枕草子』第九段

問一　――線①の中から、歴史的仮名遣いの文字を二つ抜き、それぞれ現代仮名遣いにあらためなさい。

問二　空欄（　②　）に入る口語訳として正しいものを、ア～エから選びなさい。（参考…「まさな」は「正無し」の語幹「まさな」である）

ア　縁起がいい　　イ　体調が悪い　　ウ　行儀が悪い　　エ　顔つきがいい

問三　空欄（　③　）に漢字二字を入れて、口語訳を完成しなさい。

問四　――線④「しれ者」とあるが、「翁丸」がこう言われるのはなぜか、最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア　帝の命令は冗談だったのに、命婦が止めろと言うのも聞かず、帝に従って猫を襲ったから。
イ　馬の命婦の命令を真に受けて、帝が大切にしている猫に、飛びかかってしまったから。
ウ　犬のくせに、人間の言葉を理解したと思い込み、猫と対等だと思い上がっているから。
エ　誰でも、暖かい日の下で居眠りするのは気持ちがいいのに、帝の昼寝の邪魔をしたから。

問五　『枕草子』の作者をア～エから選びなさい。

ア　清少納言　　イ　紫式部　　ウ　鴨長明　　エ　兼好

三　次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

ある夏の終わりの夕方、A少年は a路地の入口の土の上にB少年がうずくまって、茶色い犬の耳を引っ張っているのを見た。AとBは同級生で、小学五年生である。Bは二本の指で三角形にとがった耳の先をつまみ、すこしずつ引っ張る。それにつれて、犬の口の端が耳の方に釣り上げられるようにすこしずつ開いてゆき、黄いろい歯が剝き出されてくる。老いた大きな犬で、寝そべった姿勢を崩そうとはしないが、かすかな唸り声が開いた歯の隙間から洩れてくる。

Bは耳を引っ張りつづける。唸り声はしだいに大きくなり、犬は吠え声といっしょにBの指に喰いつこうとするそぶりになった。大きく開いた口の中の薄桃色が、一瞬あらわになった。

素早く、Bは指を引っ込めた。犬はうるさいものを払い除けるように二、三度首を振り、やがて顎を地面につけた元の姿勢に戻った。

①Bの顔に嬉しくてたまらぬ表情が浮かび、また指を犬の耳に向かってのばしてゆく。

「喰いつかれるぞ。」

Bは顔を上げて、Aを見た。肥ったまるい顔に温和な笑いが浮かび、

「本気じゃないのはわかってるもの。それに、ぼくが犬好きだということを、こいつはよく知っているよ。」

「そうだ。」

Aは不意に思い付いて、声をあげた。

「今度の日曜に、いっしょに犬屋に遊びに行かないか。」

②「犬屋って。」

「そうさ、いろんな犬がいっぱいいるんだ。広い地面が、犬だらけなんだ。」

「いっしょに行こう。」
Bは咄嗟にそう言った。
「ぼくも、一人じゃどうかとおもってたんだ。知り合いの家で、前から誘われていたんだけど、電車で一時間近くかかるところなんだ。いま、うちの柴犬が仔どもを産みに、そこへ行ってる。チャンピオンの雄が、そこにいるんだそうだ……。」
Aが機嫌よく喋っているあいだに、Bの表情が暗くなった。そして曖昧な調子でBが言った。
「そうだ。忘れていた。③今度の日曜は用事があるんだ。Aちゃん、君ひとりで行ってくれ。」
「なんだ、つまらない。一人じゃ仕方がないよ。それじゃ、この次の日曜にしよう。」
「そうか、すまないね。あ、それから、相撲の＊ブロマイド、まだ借りたままだけど……。」
大型の名刺ほどの大きさの印画紙に、化粧まわしをした相撲取りの立ち姿が焼き付けられてある。子供たちは、それを＊メンコ遊びに使っていた。
「いいよ。あれは、いつでもいいよ。」
と、Aは答えた。
もう一度Bは茶色の犬の耳を引っ張り、路地の中に姿を消した。（中略）

次の週が来るのを待ちかねて、AはBにb尋ねた。
「今度の日曜は、大丈夫だね。」
「うん、それがね……。」
Bはc生返事をした。
「それが、といったって、この前ちゃんと約束したじゃないか。」

「うん。あと、二、三日たてば、はっきりするんだけど……。」

④Aが気色(けしき)ばむと、Bは曖昧な調子で答えた。

家へ帰って、Aが祖母にBの＊煮え切らぬ態度を訴えた。祖母はしばらく考えていたが、

「それはおまえ、Bさんは電車賃がないのじゃないかしら。」

「まさか。」

⑤反射的にそう答え、いっそう強く言った。

「だって、そんな……。」

それは、祖母の言葉に反対したというよりは、Aが祖母の言葉に不意を打たれたためである。

「あたしは、そうおもうね。ためしに、電車賃のことは心配しなくていい、といって誘ってごらん。」

祖母がそう言ったときには、Aはその言葉を正しいとおもっていた。Bが貧乏なことは、十分承知していた。だからこそ、Bを喜ばせようとおもって、誘ったのだ。

一度だけ、Bの家でおやつを出してくれたことがある。顔色のわるい小柄なBの母が、ふかしたサツマイモを持って台所から出てきた。d縁の欠けた小さな皿の上に人差し指くらいの太さの芋が、五本ほど載っていた。細い屑芋(くずいも)には、あちこちひょろひょろと長い毛が生えていた。

「こんなもの、おいしくないでしょうね。」

Bの母親が、ちょっと怒ったようなe口調でそう言う前に、Aは＊狼狽(ろうばい)に似た気持ちになっていた。Bの家にとって、その屑芋が貴重なものであることがわかったからだ。

⑥Aはいそいでその芋をつまみ上げ、口の中へ押し込んだ。

（『子供の領分』吉行淳之介）

※設問の都合上、漢字などの表記をあらためました。

注

＊ブロマイド……肖像写真。役者や力士などが印刷されていた。

＊メンコ遊び……厚紙（メンコ）を台の上に置き、ひっくり返す遊び。

＊煮え切らぬ……ぐずぐずとはっきりしない様子の。

＊狼狽……あわてふためく様子。

問一　――線①とあるが、その理由として不適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア　耳を引っ張ったが、ぎりぎりのところで、犬がかみつくのを逃れ、愉快だったから。

イ　犬がもともと好きで、犬と仲良く戯れることが好きで、それができて愉快だったから。

ウ　自分と同じく、やはり犬が好きなAに対して、自分の犬を自慢できて愉快だったから。

エ　地面に顎をつけ元の姿勢に戻った犬に、もう一度いたずらができると思い愉快だったから。

問二　――線②は誰の会話か、本文中の語で答えなさい。

問三　――線③は「嘘」だと思われるが、なぜBはそんな嘘をついたのか、三十字程度で説明しなさい。

問四　――線④とあるが、「気色ばむ」を辞書で調べると、「怒りを表情に表す」とあった。Aが「気色ば」んだのは、いつか。最も適当なものをア～エから選びなさい。

ア　「なんだ、つまらない。一人じゃ仕方がないよ。」と言った時。

イ　「今度の日曜は、大丈夫だね。」と言った時。

ウ　「それが、といったって、この前ちゃんと約束したじゃないか。」と言った時。

エ　「まさか。」と言った時。

問五　――線⑤とあるが、それはどうしてか。「電車賃」「貧乏」の二語を必ず用いて、六十字程度で説明しなさい。

問六　――線⑥のAの心情について生徒たちが話している内容のうち、最も適当なものをア～エから選びなさい。

ア　Aにとっては、屑芋なんてまずくて、食べられたものじゃなかったから、不愉快だったけど飲み込むように食べたんだね。

イ　それだけじゃなくて、自分の家と比べてあまりにも貧しいBの家のおやつが、汚らしいのでちょっと嫌悪感もあるみたいだね。

ウ　Bの家では、この屑芋ですら貴重なほど貧しい現実を目の当たりにして、戸惑いと何か罪悪感みたいなものも感じたんじゃないかな。

エ　いや、さっさと食べて、Bと早く遊びたかっただけなんじゃないかな。なんていってもまだAもBも小学五年生なんだもの。

問七　――線a～eをひらがなに直しなさい。

四　次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

私たちはいったいなぜこれほど生きづらくなったのでしょう。お金がないからでしょうか。先行きのaホショウがないからでしょうか。夢が持てないからでしょうか。仕事がないからでしょうか。それとも、生き甲斐（がい）を見つけられないからでしょうか。

そのいずれも少しずつ当たっているのですが、私はより本質的な理由として次の三つについて考えてみたいと思います。

まず一つ目は、グローバリゼーションが進み、多様化が進むどころか、①むしろ人びとの価値観が画一化し、「代替案（オルタナティヴ）」というものを考えられなくなったことです。

どんなものごとでも答えは一つではありません。常識的によいといわれていることのほかにも、自分にとって最適の何かがあるはずです。しかし、多くの人がそれを見つけられなくなっているのです。

たとえば、進学、就職、bシュウニュウ、社会活動、人間関係、恋愛、あるいは趣味や暮らし方……。どのような生き方がcカシコくて、どのような働き方が尊敬されて、どのような生活スタイルがカッコいいのか。そうしたことについての価値観が異様なくらい画一的になっていて、それ以外のものを思いめぐらす想像力がないのです。一つの価値観しか持っていないと、それが崩れたときに逃げ場がないという恐ろしさがあります。

いじめやひきこもりなどの問題も、これと無関係ではありません。先だってこんなことがありました。ある若者から、いじめにあって学校に行けなくなり、家庭内でもうまくいかず、悩んでいるという話を聞いたのです。そこで私は、それなら家出でもして知らない土地に行ってやり直したらどうかと言いました。すると、②家出？　そんなことは思いもよらない、そういうことではなく、いまこの現状をよくするためにはどうしたらいいかを知りたいのだという、まったくすれ違いの反応が返ってきました。

私としては、その生き方がどうしても苦しいならリセットしたらいいと思うのです。いまの学校がだめなら別の学校に入る。いまの土地がだめならよそへ行く。家族との関係がだめなら一人暮らしをする。コンビニなどでバイトでもすれば若者一人くらいなんとか生きていけるでしょう。我慢したあげくに死を選んでしまうより、まったくいいはずです。

それにもかかわらず、いま自分が手にしている価値観を捨てられない人が多いのです。③それを捨て去っても人生は続く、いくらでも別の人生はあるというふうに考えられなくなっているのかもしれません。（中略）

二つ目は、人と人とのつながりが薄れ、危機に陥っても誰も助けてくれない、少なくともそう思っている人びとが多いということです。

たとえば、大学を卒業しても職につけない人、リストラにあって再就職の見込みもない人、成果をあげられず仕事が回ってこない人、健康保険料を払えず病気の治療もできない人、心を病んで家から出ることもできなくなってしまった人……。そういう人を見ても、手が差し伸べられなくなりつつあります。

誰しもそういう人を気の毒に思わないわけではないのです。痛ましくも思うのです。しかし、見て見ぬふりをしてしまう人が多いのです。明日はわが身かもしれないと恐れるあまり、かかわりあいになることを避け、ガードを固めているのです。ふと見渡せば、われわれはみなdコリツして、④〝隣人〟を失ってしまいつつあるのではないでしょうか。

私たちはいつから相互扶助（ふじょ）の精神を忘れたのでしょう。いつから「お互いさま」が死語になったのでしょう。いまでは、⑤困っている人を助けないことを冷血と非難するより、むしろ、怠け者に足をひっぱられるのは不合理だという考え方のほうが先に立ちます。悲しいことですが、社会全体の通念がすでにそうなりつつあります。

「働かない者になぜ金をやるのか」「できない者に仕事を与える必要はない」「失敗したのはリスク管理能力がないからだ」

このような考え方には、すべての責任を個人の問題に還元して、社会に不利益が生じないようにしようとする意識がそこに見えます。

友人関係などもそうです。たいていの人が深い人づきあいをすることを避け、いざとなったらサッと切ることができるような関係しか築こうとしません。そこに一抹（いちまつ）の物足らなさはあるのです。しかし、突っこんだ関係になってあとで面倒なことになるほうを心配するのです。（中略）

三つ目は、⑥いま述べた二つのこととも関係するのですが、価値観が画一化し、選択肢が少なくなったために発想力が貧困になって、何をしたらいいかわからなくなったことです。

失敗しても誰も助けてくれませんから、みな恐怖にかられて必死に走りはするのです。しかし、そうでありながら、自分は何をめざすのかという目標が見つかりません。これでいいのだというeカクシンが持てないのに止まるわけにもいかないので、無闇（むやみ）に走っていかざるをえないのです。

（『心の力』　姜尚中）

※設問の都合上、漢字などの表記をあらためました。

問一　――線①「むしろ」を国語辞典で調べると、次のような説明があった。これを読み、(1)～(3)の問いに答えなさい。

むしろ【副詞】　二つのうち、あれよりもこれを選ぶという気持ちを表す。

(1) 「むしろ」の使い方として**不適切な**例文を、ア～エから一つ選びなさい。

ア　今日は家にいるよりも、むしろ外で遊ぼうよ。
イ　昨日は運動もしたし、むしろ疲労もあったよ。
ウ　それくらいなら、むしろ何も食べたくないね。
エ　彼は努力家なのかな、いや、むしろ天才だね。

(2) 本文中の「むしろ」を、「AよりもBである」という形で書き表すとすると、AとBの組み合わせとして最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア　A　グローバリゼーションが進むこと　　B　多様化が進むこと
イ　A　多様化が進むこと　　B　グローバリゼーションが進むこと
ウ　A　グローバリゼーションで多様化が進むこと　　B　人々の価値観が画一化したこと
エ　A　人々の価値観が画一化したこと　　B　「代替案」が考えられなくなったこと

(3) 漢文の故事成句に「鶏口牛後」という四字熟語があるが、これは「むしろ鶏口となるとも、牛後となることなかれ」をもとにしている。このことを踏まえ、「鶏口牛後」の意味を簡潔に説明しなさい。なお、「鶏口」とは「小さな集団のトップ」、「牛後」とは「大きな集団の下位者」というほどの意味である。

問二　――線②とあるが、「若者」がそう言う理由を筆者はどう考えているか、次の文はそれを説明している。空欄（　　）に入る四十字の一続きの表現（読点を含む）を探し、その最初と最後の五字を書き抜きなさい。

どんなことにも答えは一つではないはずなのに、生き方についての（　　）ようになってしまっているから。

問三　――線③が指示する内容を十五字以内で書き抜きなさい。

問四　――線④「隣人」とは、ここではどういう人のことを言っているか。本文中の言葉を用いて、五十字以内で説明しなさい。

問五　――線⑤とあるが、このような「考え方」の根底には、どのような人びとの意識があると筆者は述べているか。それについて述べている四十字の一続きの表現（読点を含む）を探し、その最初と最後の五字を書き抜きなさい。

問六　――線⑥「いま述べた二つのこと」について、次の(1)、(2)は端的に述べている。次の空欄【　　】に入る語句を、本文中から指定された字数で書き抜きなさい。

(1)　グローバリゼーションの進行により【　　七字　　】したこと。

(2)　相互扶助の精神の喪失により【　　九字　　】が希薄化したこと。

問七　═══線「思わないわけではない」という表現について、生徒A～Dが話している。A～Dの発言のうち、不適当なものを一つ選びなさい。

A　「思わない」、「わけではない」と分けると、「ない」、「ない」で否定が連続していることが分かるね。

B　そう、だからよほど否定の気持ちが強いということだよ。「絶対、思わない」ということだ。

C　え？　その反対じゃない？　「思うことは、思う」という肯定の意味合いになるんじゃないの。

D　文章の最後の方に「走っていかざるをえない」という表現があるけど、これも「ざる」と「ない」で否定が連続しているね。

問八　〰〰線a～eを漢字で書きなさい。

一般入試

令和四年度　函館白百合学園高等学校入学試験

国語　解答用紙

受験番号

氏名

得点

一

問一
①
らず
②
③
びた
④
⑤
⑥
⑦
⑧
らか

問二
①
②
③

問三
①
②
③
い隠す

問四
①
和
②
我
中

問五
①
②

問六

小計

二

問一
順不同

問二

問三

問四

問五

小計

三

問一

問二

問三
30
問四
60

問五

問六

問七
a
ねた
b
c

問七
d
e

小計

四

問一
(1)
(2)
(3)

問二
ようになってしまっているから。

問三
15

問四
50

問五

問六
(1)
7
(2)
9

問七

問八
a
b
c
くて
d
e

小計

一般入試

令和四年度　函館白百合学園高等学校入学試験

国語　解答用紙

受験番号

氏名

一

問一
① 焦（らず）
② 追求
③ 延（びた）
④ 遺産

問二
① こんきよ
② しようこ
③ かくいつてき
④ おお（い隠す）
⑤ 感心
⑥ 是非
⑦ 改定
⑧ 朗（らか）

問三
① 頭
② 目
③ 足

問四
① 付和雷同（完全解答）
② 無我夢中

問五
① エ
② ウ

問六
イ

各1点（問4はそれぞれ完全解答）

小計 20

二

問一
を→お ①
づ→ず ①（順不同）

問二
ウ ③

問三
本当 ③

問四
イ ②

問五
ア ②

小計 12

三

問一
ウ ④

問二
B少年 ④

問三
Bの家は貧しく、電車賃をもらうことはできそうもなかったから。 ⑥

問四
ウ ④

問五
Bの家が貧乏だと分かっていたが、電車賃がないなどとは思ってもいなかったので祖母の指摘にびっくりして認めたくなかったから。 ⑧

問六
ウ ④

問七
a ろじ
b たず（ねた）
c なまへんじ

問七
d ふち
e くちょう

a～e各①点

小計 35

四

問一
(1) イ ②
(2) ウ ②
(3) 大きな集団の下位者であるよりも小さな集団のトップを選びなさいということ。 ③

問二
価値観が異〜像力がないようになってしまっているから。 ③

問三
いま自分が手にしている価値観 ③

問四
自分が窮地に陥ったのを見て、気の毒に思い、見て見ぬふりをせず、手を差し伸べてくれるような人。 ⑥

問五
すべての責〜とする意識 ③

問六
(1) 価値観が画一化 ②
(2) 人と人とのつながり ②

問七
B ②

問八
a 保証
b 収入
c 賢（くて）
d 孤立
e 確信

a～e各1点

小計 33

得点 100